

## 豚繁殖・呼吸障害症候群ウイルス（PRRSV）コントロールに向けた取り組み

東部家畜保健衛生所 おおほし 大橋めぐみ いとうまさこ 井藤雅子

### 【はじめに】

母豚の飼養規模が 90～270 頭の一貫経営 8 農場が隣接する養豚団地において PRRSV のコントロールに向けた取り組みについて報告する。

### 【PRRSV コントロールに向けての取り組み】

#### 1 母豚の免疫の安定化

平成 29 年 4 月、8 農場中 7 農場で PRRSV の垂直感染が確認された。このことにより以下の 2 点について改善した。①4 半期毎の母豚群へのワクチン一斉接種。②導入候補豚に種付け前 2 回のワクチン接種を徹底。結果、平成 29 年 10 月、垂直感染は 1 農場と減少した。

#### 2 農場外防疫の強化

平成 30 年 4 月までに団地内には複数株の PRRSV が存在していることが確認された。このことにより新たな侵入防止のために、毎月、改善事項の検討とその実施状況の確認を行った。具体的な改善事項は、管理棟での消毒方法についてのルールの明確化、各農場の入り口に動噴設置、出荷時防疫、紙袋飼料等の納品場所の変更等である。

#### 3 子豚ワクチン接種

症状を軽減させる目的で、5 農場において子豚に PRRS ワクチン接種を行った。結果、3 農場で PRRSV 血症がワクチン株のみの検出となり、野外株の検出が見られなくなった。

#### 4 作業動線等の改善

離乳舎で野外感染させないことを目標に掲げ、分娩舎からの移動方法、豚舎ごとの長靴の設置、作業者の専従化など農場ごとに対策を講じた。

### 【生産成績】

対策前後 1 年間の母豚 1 頭あたりの生産成績を比較すると、6 農場の平均で 1.63 頭増加したため、大きな売り上げアップにつながった。

### 【今後の展望】

今後は全農場で、子豚ワクチン接種により野外株を封じこめることは有効であると推察した。今回多くの農場で PRRS の野外感染時期が遅れたため App などの二次感染の症状の軽減にも期待する。本団地のように 1 農場だけで取り組んでもコントロールは難しいが、団地の全農場で取り組むことが重要である。管内の他農場でも有効な対策が実施できるように、農場に深く入りこみ、対策をたてることが今後の目標である。